



熊本支部報

(公社)日本山岳会熊本支部

第62号

令和7年5月25日発行

発行者 土井 理

編集者 田北 芳博

(公社)日本山岳会熊本支部事務局

熊本県玉名郡長洲町宮野 2488-2

城戸邦晴 方



くじゅう連山パノラマ (久住高原より 5月上旬)

目 次

ページ

1 2024年度厳冬期八ヶ岳最高峰赤岳登山報告	土井 理	②
2 令和7年新春晩餐会	城戸 邦晴	④
3 上天草市「観海アルプス北部」低山クラブ (白嶽～高舞登山)報告書	池田 清志	⑥
4 横平山・半高山(玉東町) 低山クラブ	担当 戸上 貴雄 記録 武田 偉幸	⑦
5 令和7年干支の山「黒髪山、蛇焼山」	中村 寛	⑩
6 冬の例会仰烏帽子山(福寿草)	中村 寛	⑬
7 宮崎支部との交流登山	城戸 邦晴	⑭
8 矢岳高原・矢岳山 低山クラブ	池田 清志	⑯
9 令和7年度日本山岳会熊本支部総会報告	城戸 邦晴	⑯
10 会員の異動	城戸 邦晴	⑰

1 2024 年度厳冬期ハケ岳最高峰赤岳登山報告

担当:土井 理

2025年1月11日(土)～13日(月・祝日)の3日間 厳冬期ハケ岳:赤岳登山に行ってきました
参加者:城戸邦晴、土井理、赤星隆弘、浦川留美、佐藤正樹の5人。

天候:1月11日晴れ、12日朝晴れ 10:00から曇り、13日晴れ

山行は比較的ゆっくりでしたが、やや波乱万丈の山行となりました

1月11日(土):7:00に熊本空港集合 飛行機には持ち込めない物がある事は周知していたつもりですが、右往左往している方もおられました。

7:45 熊本空港発 JAL622便: 9:20 羽田空港第1ターミナル着

10:00 羽田空港第1ターミナル東京モノレール発 10:18 浜松町着

10:24 浜松町発 JR 山手線外回り品川方面行き 10:50 新宿着

11:04 新宿発 JR 特急 あずさ 17号 昼食は電車の中で。13:15 茅野駅着

茅野駅到着前に電車車内で、エマージェンシーメディカルアナウンスが流れました。「医師の方がおられましたら 6号車にお願いします」というアナウンスです。土井が6号車に行きますと、80才位の男性が冷や汗を流し、両側上肢の脈は触れず、胸が苦しいと言う状態でした。頸動脈触診で脈は触れたがやや徐脈の為、電車の座席2つを使用し横にして下肢を拳上し、観察したところ、上肢の脈も触れる様になり、徐脈は改善し、症状から急性心筋虚血(ACS)と考えられました、車掌さんが来られ、茅野駅で救急車手配しましたとの事でした。救急車に同乗お願いできますかとの車掌さんのお願いででしたが、予定があり困難ですと丁重にお断りし、皆のところに戻り 13:10 茅野駅にて下車。

茅野駅東口で、予約していました諏訪交通のジャンボタクシー乗車し、美濃戸口へ向かいました。

14:00 美濃戸口着 美濃戸口到着後にハケ岳山荘で着替えをデポさせて頂き少し荷物を軽くした。

14:15 北沢ルートを徒步で途中「ハケ岳の祠」に登山の無事を祈願し、赤岳鉱泉へ向かいました。

やや遅れてしまいました。祠にも「くまモン」が居ました。

17:18 赤岳鉱泉着 宿泊者が多く、こたつ個室4人部屋に5人となり、夕食 18:40～夕食はハンバーグ。夕食後翌日の行動計画を話して、21:00頃就寝。

1月12日(日):起床 5:00、6:00前から朝食に並び、朝食摂取。不要荷物は赤岳鉱泉にデポ。

7:00 準備でき次第出発の予定であったが、7:26 赤岳鉱泉出発と遅れてしまった。8:04 行者小屋登攀地蔵尾根ルートで: 上部の長いハシゴ状の階段は雪に埋もれてはおらず、金属製の階段を注意して登った、9:30 地蔵の頭 9:39 赤岳展望荘 10:10 赤岳頂上山荘 10:14 赤岳山頂。

稜線で風が吹くとさすがに寒く、-20°C位の気温となっていた。天気予報通りの天候で、山頂からの眺めは堪能できなかった。山頂で登頂の記念写真を撮って下山した。

文三郎ルートで下山 10:38 下山開始 文三郎ルートは山頂直下が急な斜面となっており慎重に下山 11:26 行者小屋。まずは赤岳登頂とここまで無事の下山をたたえ合った。12:00 赤岳鉱泉到着 昼食を赤岳鉱泉でカレーを満喫。13:20 赤岳鉱泉から下山開始、13:57 堰堤広場、14:35 やまのこ村 14:45 頃凍った林道で城戸さん転倒頭部打撲。大変焦ったが、意識あり、会話可能。出血なし、手足は動かせる状態。歩行可能との事で、そのまま下山した。ほぼスケジュール通りの山行となつた。

15:16 美濃戸口 ハケ岳山荘に到着。到着後入浴させて頂き、18:00から豪華な夕食となった。

韓国料理のサムゲタンであった。ハケ岳山荘はホテルの様に素晴らしい宿泊施設であった。

夕食後主人から自家製の生ハムをごちそうになり、他の宿泊者の方とも楽しい一時を過ごした。

城戸さんには少しの頭痛があるとの事であったが、帰熊後は頭部のチェックをする様にお願いした。

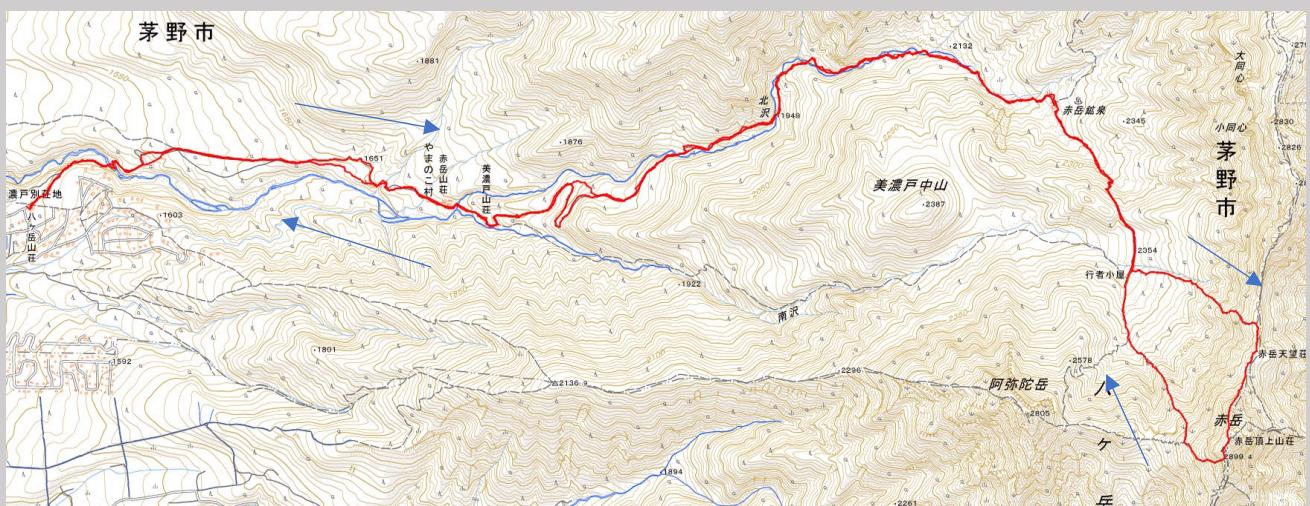
1月13日(日):ハケ岳山荘で朝食後、美濃戸口 10:20 発の茅野行きのバスに乗車。

11:00 には茅野駅にバス到着します。
少し時間がある為、赤星さんの発案で、甲府で武田信玄の武田神社に参拝して帰る事とした。
11:44 茅野駅発—中央本線各駅停車で—甲府に向かった。12:44 甲府到着。みどりの窓口で帰りの電車の切符を取って、武田神社に歩いて参拝した。約 2.2km 30 分の歩行で到着参拝した。
15:15 甲府発 特急かいじ 16:57 新宿着—乗り換え JR 中央線特快で 神田乗り換え 浜松町でモノレールに乗り換えて 羽田空港に到着した。
羽田空港が激変しておりチェックインや荷物預けは全て自分で、スタッフは誰もいないと言う状態。荷物預けのラインも止まったり動いたりと、とんでもなく時間を費やした。チェックインゲートでは、靴は脱がなければならない、前開きのジップの服は全て脱がなければならない状態。ここでもとんでもなく時間がかかる状態に激変していた。
18:00 羽田空港第1ターミナル着していたので何とか飛行機の時間に間に合った。
19:00 羽田空港発 JAL639 便 20:55 熊本着 到着後空港で解散しました。
解散直後、携帯電話が「地震です地震です」と言い出した。その後に横揺れがあった。遠くで地震が起きた様だと考えつつ各自帰途に着いた。





赤岳鉱泉のアイスキャンディー



2 令和7年新春晩餐会報告

城戸邦晴

期日 1月 18 日(土) 16 時～18 時

場所 ダイニングカフェ彩

お正月過ぎた 18 日、新春晩餐会は夏のビールパーティと同じく、熊本市役所 14 階にあるダイニングカフェ彩で行われました。窓の外に熊本城と市街を一望できました。他に客はなく、日本山岳会熊本支部が自由にパーティを進行することができました。白い布掛のテーブルが窓に沿って一つにかためて並べられており、マイクの用意もされていました。

参加者は 22 人、会員・会友は 21 人で田上裕輝さんがお子さんを連れての参加でした。土井支部長の挨拶の後、顧問の工藤文昭さんの乾杯で始まりました。静かな会場で、なごやかに歓談がなされていました。

しばし歓談の後、土井支部長から厳冬期八ヶ岳登山の報告がありました。5日前に山から戻ったばかりで、壁面に写真を映し出しての臨場感のある話に、九州ではありえない大雪と

寒さの体験に皆さん熱心に聞き入っていました。壁に白布をかけての映写の要請に快く応じて頂いたお店に感謝します。九州から出て日本アルプス方面への冬山遠征は山岳会の貴重な体験となる山行であり、熊本支部として今後も続けていきたいと感じました。

登山報告の後、3月までの行事予定の説明が各担当者からなされました。干支の山は正月間もない時期に実施した方がよいとの声があったので、令和7年は2月に蛇焼山に行くこととなりました。

最後は顧問の松本莞爾さん的一本締めで閉会しました。同じ場所での開催はどうなるか心配でしたが、なごやかで

楽しい時間を過ごし、皆さんにも喜んでもらえたように思います。なじみのある場所でしたが、個室状態で利用させてもらい、山岳会の晚餐会にふさわしい演出もでき、眺めの良い、安くておいしい料理、なかなか他にない場所として評判は上々のようです。早めの予約もよい結果をもたらしました。来年の新春晚餐会でも皆さんに楽しんでもらえるように、準備を早期に始めたいと思います。終了して会場を離れる時には窓の外は夜景が広がり、ライトアップされた熊本城があざやかに浮かび上がっていました。

解散の後の二次会も、おなじみの店でした。9名の方が参加されました。そこでは山の歌の合唱もあり、楽しいひとときを過ごしました。

(参加者) 赤星隆弘、池田清志、岩下律雄、浦川留美、川上春枝、城戸邦晴、木下昭二、工藤文昭、田北芳博、田上裕輝、武田偉幸、土井 理、中林暉幸、橋本悦子、舛田レイ子、松尾重勝、松本莞爾、三宅厚雄、廣永峻一、安場俊郎、山本 直



晚餐会の様子（厳冬期八ヶ岳登山報告中）



新春晚餐会集合写真

3 低山クラブ 上天草市「観海アルプス北部」(白嶽～高舞登山)報告書

池田清志

1. 期日 令和7年1月26日(日曜)

2. 場所 上天草市、観海アルプス北部(白嶽372m→高舞登山116m)

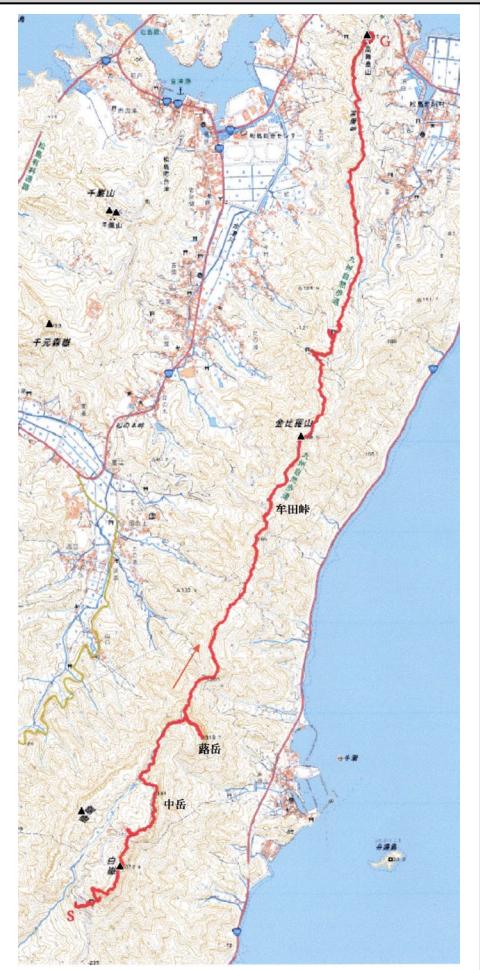
3. 行程 アクアドーム駐車場7:00発、途中でトイレ休憩、
8:00高舞登山Pで1台をデポ。8:40白嶽キャンプ場直前の矢岳神社入口近くに路肩駐車8:50
～9:20矢岳神社～ドルメン～9:45白嶽山頂
10:00～11:20露岳 11:30～11:40東屋(昼食)
12:10～13:05牟田峠～13:35金毘羅山～
13:55金比羅神社 14:00～14:10阿岳山・十二
手観音 14:20～14:50茶屋峠～15:05高舞登山
15:15～15:20高舞登山駐車場～[車の回収40
分、他者は下の国道入口まで歩く]～同入口
16:10出発(途中コンビニ)～17:30アクアドーム
P、17:38解散

※ヤマップデータ：約6時間半、9.1km、積算標高差上
り560m・下り760m、コース定数15

4. 参加費 2100円(車両のガソリン代・資料代) 往復
140km、車両4台(下見の車両1台含む)

5. 参加者 7名(池田、武田、戸上、中林、前田、松尾、
森尾以上敬称略・下線部は車両提供)

6. 感想 天気は快晴、かつモヤ・カスミ(黄砂やPM2.5)
のない澄み切った空気の一日だった。東西南北どこまでも展望よし。観海アルプ
ス北部の中心は白嶽周辺であるが、ジップラインという遊具施設が建造されてい
たのは国立公園の景観上残念な気がした。自然景観以外に様々な歴史的・宗教的
遺物が点在して楽しめた。





4 横平山・半高山（玉東町）

担当/戸上、記録/武田

日 時 2025年2月2日（日・節分） 天候（曇り→晴れ）、朝の気温（高め）

集 合 吉次峠駐車場（9時40分） → 車3台に分乗、出発点の田原坂資料館駐車場

山 行 田原坂資料館駐車場（10時10分）～横平山（昼食）～半高山～吉次峠駐車場（14時）

参加者 合計9名 池田清志、川上春枝、城戸邦晴、木下昭二、武田偉幸、戸上貴雄、中林暉幸、前田節子、松尾重勝（敬称略、五十音順）

経 費 収入200円×9人=1800円 支出1800円

支出内訳 ガソリン代 1500円（250円×2台+下見含む500円×2人）+印刷代 300円

<集合>吉次峠駐車場 9:40

私たち以外にも数台が駐車し、三の岳方面に向かう人の姿も。山行起点の田原坂資料館駐車場への移動まで時間があったので、数人のメンバーが道路沿いの無人販売所でミカンを購入した。全員揃ったところで、担当の戸上さんの挨拶の後、9時45分頃、車3台に分乗して山登りの出発点である田原坂資料館駐車場へ向かう。

（1）田原坂資料館駐車場から横平山へ

10:10頃出発広い駐車場には先客4～5台の車。出発前、集合写真のシャッターを押してもらったご婦人によると県外ナンバーも来ることがあるとのこと。

駐車場前の車道（歩道）を東へ10分ほど歩き右折、坂道を下り、通行量の多い（主要地方道）県道熊本原坂線（2005年に熊本鈴木線から名称変更）を注意しながら横切り、JR田原坂駅の斜め下付近、地図で現在位置を確認後、しばしの休憩。



そこから木葉川にかかる赤尾橋を渡り、横平山までなだらかな車道を歩く。「横平山へ」の看板から車道と別れ頂上を目指す。横平山山頂横のミカン畑の中を歩いていると、中身を食べられ皮だけになったミカンが（干からびずに）数十個ついた状態で何本もある珍しい光景に驚く。



木葉川を右岸から左岸へ渡る赤尾橋

(2) 横平山 144m (昼食) 11:50頃

山頂は広く、比較的新しい展望台と綺麗なトイレも整備されている。二グループに分かれ、ベンチや記念碑の基礎の石垣に座り昼食。東側に植えられた幅5mくらいの山茶花にメジロが来ており、見ていると癒される。

三角点が古くて何等か判別できそうになかったところ、中林先生から一辺の長さが小さいから四等だろうとの説明があり勉強になった。



横平山山頂

1等(18cm角)、2等(15cm角)、3等(15cm角)、4等(12cm角)と日々1辺の長さが決められており、かつ、三角点間の設置距離も1等が約40km、2等が約8km、3等が約4km、4等が約2kmと決められているとのこと。また、山頂の標識の一つに、歩いてきた道が「横平山～半高山～三の岳」の九州自然歩道の一部であることが書かれていた。



横平山山頂の展望台

(3) 半高山 (293.9m) へ 12:30

横平山から半高山までは、ミカン畑の中を通る緩やかなコンクリート舗装路を登って行く。途中、獣害を防ぐためのフェンスの扉を何ヵ所か開け閉めしながら登って行くが、いつもの山登りのようにはきつくなかった（企画に感謝）。





半高山293.9mの三角点

に埋められたコンクリート箱の中に収められており、蓋を開け三角点を確認。

(4)吉次峠駐車場 14:00

山頂からきれいな舗装路を 5 分ほど下り集合場所の吉次峠駐車場へ。途中、親子連れで登ってくる人や改植のためか伐採されたミカンの木を燃やしている風景も見られた。解散式の後、山行出発点（田原坂資料館駐車場）に駐車している 3 台の運転者を乗せた車が出発。この冬で一番寒い中、春のような暖かさに恵まれた日曜日。「今回のような山登り？も年に 1~2 回くらいはいいかな」との声も聞かれるなど、初心者も、私のような年配者も、また来たいと思うような、まさに山歩（さんぽ）と呼べる山行でした。（武田）



半高山から吉次峠へ下山

次第に標高が高くなるにつれ見晴らしが良くなり、途中で立ち止まると、北の方角には八方ヶ岳、北西方向にかけて木ノ葉山、小岱山、小さく三池山、西の方角にかけては、有明海を囲むように佐賀の多良岳、その左には雲仙普賢岳まで見渡せる。

頂上は新しい展望所が整備され、何人の登山者（ハイキング？）の姿も見られた。

山頂の三角点は地表にむき出しではなく、土



5 令和7年干支の山 黒髪山、蛇焼山(じゃやきやま)

担当 中村 寛

* 日時 2月9日（日曜日）7時出発

* 目的の山 黒髪山(516m)、蛇焼山(505m)

* 行程 北区役所駐車場⇒龍門ダム駐車場⇒見返峠⇒黒髪山(天童岩)食事 ⇒蛇焼山
(7:00 発) (10:00 着、10:26 発) (12:30 着) (13:10 着)
⇒登山口着 ⇒ 北区役所駐車場 (高速利用)
(14:40 着) (17:00 着)

* 交通便 自家用車分乗 車提供者 田北、土井、赤星、中村の4名

* 参加者 中林暉幸、安場俊郎、土井理、池田清志、田北芳博、松尾重勝、前田節子、
赤星隆弘、戸上貴雄、森尾奈美、中村寛（11名）他一般参加 石井美喜男、
岩村伸一、吉永キヨ子、葉文子、赤星和子、島田佐紀子（6名）総17名

毎年恒例の干支の山登山。今年は蛇年、年明け早々に佐賀の蛇焼山に登りました。

数日前の寒波の影響で龍門ダム駐車場迄ノーマルタイヤで行けるかどうか、有田町役場に確認。4台の車に分乗して向かいました。大蛇伝説の残る「天童岩、龍門洞窟」悲恋物語の「雌岩、雄岳」大きな岩の「鬼の岩屋」それからハシゴ、鎖、ロープの難所を越えると黒髪山。無事に皆さんに紹介する事ができました。ただ日本で初めて見つかったカネコシダや時間があれば有田焼ギャラリーへと思っていましたが、それは出来ませんでした。

カネコシダについては戸上さんの情報により、八方ヶ岳の矢谷渓谷沿いにもあり、コシダ、ウラジロと共に確認しました。年末の忘年登山の八方ヶ岳で紹介します。

【龍門ダム駐車場】 人気の山なので既に多くの車が停まっていました。A班は私、B班のリーダーは、赤星さんにお願いしました

【龍門洞窟】 駐車場から10分程で沢を横切ると着きます。逃げ込んだ大蛇のとどめを刺したと伝説が残る場所です。お地蔵さんが沢山ありました。

【見返り峠】 分岐点のここまで約1時間、小休憩。ここから雪道。赤星さんから安場さんが遅れてきている事と田北さんが行方不明、土井先生が、探しに戻ったとの連絡。電話は通じない。渡渉の際に滑り、倒れているのではないかと不安になる。

【雌岩展望台】 分岐から10分、雪道だとテンションが上がる。追いついてきた土井先生からまだ行方不明で見つからないと連絡がありました。雪があり危険な岩場ですが展望を楽しみました。この岩は、結ばれないと知った若者が山に入り、娘もあとを追って山に入り、その後二人共わからなくなつたという悲恋物語です。夫婦岩と紹介されているガイド本がありますが、二人は夫婦ではありません。この先の雌岩には、登れるそうですが非常に難しいそうです。ここ

で田北さんと電話が繋がり無事を確認。

【天童岩】 30分程で黒髪山の天童岩に着きます。途中鎖場、ハシゴ、ロープを使い難所を越えると大蛇が巻き付いたという、天童岩に登れる。陶器の町なので有田焼のプレートが頂上に埋め込まれている。熊本の白髪岳と姉妹山で白髪岳には有田町から贈られたプレートがあるので登られたら是非確認して欲しい。

【蛇焼山】 約5分でここに着きます。記念撮影。後続の他のグループも、記念撮影の為に控えている。普段は見逃しそうですが、今年は人気の山になっています。

【鬼の岩屋】 下山の途中にあります。皆、この岩屋をくぐりました。帰りは、雪道の下山になりましたが、無事に登山口まで戻すことができました。



*今年の干支、蛇焼き山で全員揃って記念撮影。難所を超えたので皆さんホットした表情。



頂上の有田焼のプレート、一番の写真撮影ポイント。腰をかがめて登った雌岩の展望所です。



戻って龙门ダム駐車場で記念撮影、来年春は馬の名前の山になります。



*鬼の岩屋です。皆さん大岩の下をくぐりました。



下山途中に一枚撮りました。

*当日のルートです。左の駐車場が
スタート、ゴールです。



6 冬の例会 仰烏帽子山(福寿草)

担当 中村 寛

期日： 令和 7 年 2 月 23 日（日曜）

集合場所：八代市東陽町南 1051 東陽道の駅(分乗して出発)

参加者：中林暉幸、坂本雄二、中村寛 集合時間：午前 7 時

林道着 7:35→元井谷登山口 8:45→夫婦杉 9:45→分岐 10:25→風穴 10:50→

仰烏帽子 11:25(食事 30 分)→仏石 12:50→第二登山口 14:25 東陽道の駅 16:15

通行止めの林道脇に車を停めてここから徒歩で1時間、元井谷登山口に着いた。昨年は、10台程の車が有ったが、今年はゼロ。元井谷からの登山道は崩壊で荒れていて水のない沢を登りました。雪もあり危険個所が多数あり、帰りは危険と判断、第二登山口への周回コースに変更したので18km歩くことになった。気温は-3度で止まると寒い、雪もまだ残っていたので、坂本さんは安全の為アイゼンを装着した。今回は雪の中の黄色い福寿草を楽しみにしていたが、1輪も見つけることが出来なかった。

〈人の行く裏に道あり花の山〉 鹿よけネットに沿って探していると雪が降ってきた様に見えた。それは風穴から上がる湯気だった。新しい発見、花ではありませんが分岐の先の風欠より大きなものでした。まだ知られていないようでした。



荒れた登山道です。 1000 メートル辺りから雪が深くなりました。頂上での記念撮影、その後曇ってきた。



新しく見つけた風穴



第一登山口から赤線通りに歩きました。登山口まで林道は、復旧工事で通行禁止です。

7 宮崎支部との交流登山報告

城戸 邦晴

3月1日(土)

今年の熊本支部・宮崎支部交流会は当支部の担当で、阿蘇の野焼き見学が目的だった。午後1時過ぎ阿蘇草原保全センターに熊本支部が集合、まもなく宮崎支部も到着した。予定通り1時半から保全センターの職員による説明が行われ、映像を使って草原の成り立ちと草原保全の大切さを学習した。日本最大の草原、緑の美しい草原は人の手で維持されており、今人手不足により存続の危機に瀕していることを宮崎の人にも理解して貰えただろうか。

約1時間後、三久保地区へ移動。田子山（たんごやま）へ登った。階段の多い登山道を20～30分かけて山頂へ。この日は気温が高くて汗ばむほどだった。熊本支部参加者の大部分と宮崎支部の方全員が初めて登る山であった。山頂からの眺めは素晴らしい、次々と山頂到着の度に歓声が上がった。眼下に内牧温泉が、今日泊まるホテル金時もわかった。二辺塚も阿蘇五岳もきれいに見えていた。展望台「そらふねの桟橋」が天空に突き出していた。ネットの写真と同じ構図。ここぞとばかり記念写真を何枚も撮っていた。

ホテル金時には4時過ぎに入った。雨が降りはじめた。明日の野焼きが気になり、警察へ野焼きは実施されるか問合せしたら、ただいま協議中であるとのことだった。

6時から両支部の懇親会が始まる。直前に工藤顧問が到着され、予定の全員が揃った。土井支部長の挨拶に続いて日高・宮崎支部長の挨拶、松本顧問の発声で乾杯し、食事と懇談になった。1時間ほどして工藤顧問の話。この交流会が始まった経緯が語られた。その後、廣永峻一さんの指導による山の歌合唱。「放浪の歌」、熊大山岳部歌「荒れろ黄煙」を教えられたが、初めて聞く歌で難しく、繰り返し聞いてもなかなか覚えられない。最後の「雪山に消えたあいつ」になってやっと元気な歌声となった。次に宮崎支部にお願いして全員による合唱披露してもらった「思い出のスカイライン」が懐かしかった。これは宮崎支部お得意の歌だった。宮崎地方の民謡も歌われた。そして最後に両支部で「坊がつる賛歌」を合唱した。途中「阿蘇の自然を愛護する会」の竹原会長から電話があり、明日の野焼きが中止決定との情報が入った。その場で発表すると残念の声がしきりであった。宮崎支部には気の毒だったが、こればかりはどうにもならない。ただちに雨天時の日程である観光地めぐりに変更となった。懇親会は8時過ぎに田北副支部長の万歳三唱でお開きとなった。

一つの部屋で日高支部長、土井支部長も加わっての二次会が開かれた。11時位まで続いた。夜中にかなり雨が降ったようで、道路には水たまりができていた。

3月2日(日)

雨模様の中、各自の車でホテルを出て、再建なった阿蘇神社へ参拝した。その後ふたたび車を連ねて熊本地震災害ミュージアム KIOKUへ行った。ここは宮崎支部のみならず熊本支部の人も初めてであった。1時間かけてじっくり見学した。9年前の震災が生々しく、皆さん全員に好評だった。この後「あそ望の郷くぎの」までみんなで行く予定だったが、雨がひ

どくなり、協議の結果ここで解散となった。帰路は、宮崎市まで休憩を入れると4時間かかる。このとき11時だった。また来年と手を振って別れた。

反省は、流動的な野焼きの日程への対応に追われたこと。厳しい道路規制を考えると草千里の観光野焼きが、迫力に欠けるが確実性は高い。宮崎支部には野焼き見学と聞いて参加を決めた人もいたようで、期待に応えられなかったのは悔いが残る。2年後また同企画を考えてはどうだろうか。反省を踏まえて、実現する可能性は高くなるだろう。

(参加者) (宮崎支部14名)：日高研二、武田芳雄、服部岩男、多田周廣、蔵屋とよ、迫田茂美、服部澄子、栗林淳子、栗林忠信、谷口敏子、谷口菊美、桜木勉、橋口三枝子、多田登美子、(熊本支部13名)：土井理、田北芳博、工藤文昭、松本莞爾、廣永峻一、城戸邦晴、橋本悦子、山本直、坂本雄二、岩下律雄、前田節子、森尾奈美、川上春枝



田子山山頂



田子山山頂から阿蘇の眺望



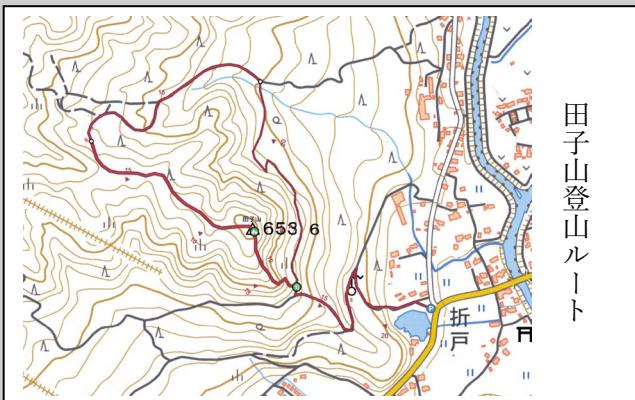
宮崎支部全員で合唱



久々の工藤顧問のお話



震災ミュージアムの見学



田子山登山ルート

8 里山低山クラブ 「矢岳高原～矢岳山」 報告書

池田清志

1. 期日 令和7年3月23日(日曜)
2. 場所 矢岳高原 700m ~ 矢岳山 739m (えびの市)
3. 集合 7:20 道の駅「竜北」駐車場 (6:50には既に誰かいて、7:10には全員集合)
4. 行程 7:20 出発 ~ 八代IC ~ 人吉IC(8:00 山江PAでトイレ休憩) ~ 8:52 矢岳駅 (SL見物・トイレ休憩) 9:07 ~ 9:10 登山口駐車場 9:25 出発 → 11:00 矢岳高原キャンプ場(展望所にて昼食) 11:40 → 12:53 矢岳高原 → 13:25 矢岳山 13:32 → 14:50 登山口駐場 15:05 出発~15:40 人吉IC ~ 15:50 山江村PA(トイレ・解散式) ~ 八代IC ~ 16:45 道の駅・竜北 流れ解散

ヤマップデータ ≈ タイム 5:30、9.4km、標高差上り下り共に 407m、コース定数はふつう 13

5. 経費 参加費 1人 1000円 × 参加者 11名 = 11000円
ガソリン代往復約 140km × 25円 × 3台 = 10500円 + 地図・資料印刷代 500円 = 11000円

6. 参加者 11名(敬称略) 及び 3台の配車 (交代運転手)

武田(車) : 石坂、石井、戸上 坂本(車) : 山本、森尾、川上 池田(車) : 前田、池田のり子

7. 参加者の感想 (4人の方から頂きました)

(1) 私の好む踏み跡のない薄藪漕ぎもあり、山歩き初級者のルートファインディングには格好のルートだと思います。

3年前に今回と同じコースを歩いた際のヤマップ軌跡をダウンロードして作動させましたが、今回は何と何故か軌跡が暴れまくり、奇妙な軌跡線になりました。ヤマップがあれば地図はなくても大丈夫と思っていると、いつか痛い目に遭うかもしれませんから、やはり常日頃から読図にも注力して、慎重・確実に行動した方が良いですね。

(2) コースは全般的に荒れていて?山歩きをする人が殆どいないなと感じられた。舗装路に出たところでウグイスの鳴き声がすぐ近くで聴けたのが自分としては嬉しかったです。

キャンプ場展望台からの眺めは、霞んでいなければ、遠くの桜島まで見えて、もっと素晴らしいだろうと少し残念。最後の方のコースでシカの防護網が張り巡らされていて、乗り越えられなかつたらと思うと、今後の山歩きも注意が必要か? 平坦な林道になってから歩く距離が思いのほか長かった。歩き終わってみて、今回の場所は自分1人ではまず行かない場所だったので、参加てきて良かったです。

(3) 道の駅 竜北駐車場 7:20分集合、参加の皆様早めに集合されて車3台で出発、途中山江PAでトイレ休憩して矢岳駅に着く。昔にタイムスリップするような駅でSLも見る事が出来ました。

再び車で移動して9:20分登山口駐車場から出発、途中そんなに激しい藪ではありませんが上りの藪を歩き、矢岳高原キャンプ場に11:03に着く。残念ながら桜✿は咲いてなくて後一週間ぐらい後でしたら見事な桜の下でお弁当を食べられたでしょう。

そこからの展望は良く、川内川が流れ、穏やかな風景でした。少し早めの昼食を摂り出発、幾つか

上りがあり 13:08 分に矢岳山に着く。それからは下りで猪や鹿の網をくぐり、14:50 分無事にスタートした登山口駐車場に到着。いつもご一緒する方々はこまめに軌跡をメモされていて私は地図の上に時間を書くだけでした。これからはこまめに軌跡をメモしていきます。改めて思いました。

(4) 急傾斜の下りで、足の弱い人が時間を要し、健脚の人が先で待つという場面がありました。待たせると焦りが生じるし、危険につながるので、弱い人の間に入って、指導してもらえばより安全な下りができるのではないかと思いました。

【 担当者から 】

今回のコースは登山者が少なくて、明瞭な登山コースはなく、テープやリボンも少なくて、人の踏み跡もないところがしばしばありました。



しかしながら地形を判断して、現在地点を地図上に確認して行けば大丈夫です。何度も現在地点の時間記録をやってもらいましたが、そのような作業を繰り返すと、読図力が向上すると思います。毎回、整備された登山コースを歩くことが多いですが、時には今回のようなルートもよいのではないかと思います。



9 令和7年度日本山岳会熊本支部総会報告

事務局 城戸邦晴

日時 令和7年4月20日(日) 9時25分～10時25分

場所 熊本県婦人会館 3階大会議室

1. 開会

本会は、日本山岳会熊本支部規約第12条に基づき、支部会員数33名に対し、出席者14名・委任状提出者15名・計29名の出席をもって、適法に成立した。

2. 議長就任

議長に土井支部長が就任した。議事録署名人も兼ねることとした。

審議に入る前に支部長挨拶があり、支部の会員が皆様の協力により人数が少しづつ増加傾向にあるとの話がなされた。その後、議案審議に入った。

3. 議案審議

第1号議案 令和6年度事業報告

事務局から報告を行った。全体的に支部の行事数が多過ぎて、役員の負担が大きくなつた。

支部通信のLINEへの切替えは、郵便料値上げの時期で、経費削減に大きく貢献した。

以上の説明の後、これを諮ったところ、異議なく承認された。

第2号議案 令和6年度収支決算報告

事務局から報告を行つた。公益事業費は収入支出が同程度であるのが望ましいが、今回支出が5万円ほど多くなっているのは貸切バスの解約料が発生したからである。

本日、監査担当者が欠席のため、議長の了解を得て事務局が監査報告書を代読した。

以上の後、これを諮ったところ、異議なく承認された。

第3号議案 令和7年度事業計画

事務局から議案書に1カ所誤記があり、干支の山が共益とあるが公益の間違いであると説明し、訂正をした。その後議案の説明を行つた。

昨年は行事数が多過ぎた反省から、今年は山行を4件減少した。減らしたのは例会と森林巡視登山である。例会は会員の親睦を深める事が目的で、他の親睦行事でカバーし、森林巡視登山は登山道の整備や巡視が目的だが、森林保全巡視員が積極的に巡視登山を行い巡視報告書を提出してもらうことでカバーする。巡視員の方の協力を期待する。

山の日登山祭を今年は金峰山で開くこととなった。多くの熊本市民が集まると思われる所以、会員・会友には例年以上にご協力を願いしたい。

9月には九州5支部懇談会があり、阿蘇山で2日間他支部のお世話をすることとなる、会員会友の皆さんには積極的な参加協力を願いしたい。

今年度から行事の都度全員にハガキを出すのは止めて、グループLINEでの連絡を原則とし、

一般参加者およびLINEで連絡できない人にのみハガキを使うこととする。

山岳保険に未加入の人は支部行事山行には参加できないこととする。

支部行事の山行は登山計画書を提出すること。個人山行でも山中一泊以上の場合は提出すること。

以上の説明の後、これを諮ったところ、異議なく承認された。

第4号議案 令和7年度収支予算

事務局から説明を行った。公益行事費は支出を5万円多く組んでいるが、九州5支部懇談会に備えてであること、予算全体では5万円ほど黒字の予定だが、2年後に支部創立70周年を迎えるので剩余金を増やしておきたいこと、郵送費など価格上昇が大きく、経費の支出には細心の注意で当たりたいこと。

以上の説明を行い、これを諮ったところ、原案のとおり承認された。

第5号議案 熊本支部規約内規改正

事務局から入会奨励金に関する規定の削除について説明を行った。本部の入会金減額改定がなされたことが提案の理由である（本部入会金が2万円から1万円へ改定された）。

以上のあと、これを諮ったところ、原案の通り承認された。

第6号議案 役員補充について

事務局より、熊本支部規約第9条(5)により田上裕輝さんを役員とする案を説明し、これを諮ったところ、異議なく承認された。

これにより令和7年度熊本支部役員は次のようになった。（任期は令和8年3月まで）

顧問	工藤 文昭 (8190)	松本 莞爾 (8411)	中林 晉幸 (14305)
支部長	土井 理 (15663)	副支部長	田北 芳博 (14459)
事務局長	城戸 邦晴 (14831) (副支部長兼務)		
役員	池田 清志 (14310)	三宅 厚雄 (15786)	戸上 貴雄 (16457)
	中村 寛 (16610)	田上 裕輝 (15686)	
監査	橋本 悅子 (14779)	岩下 律雄 (16609)	

以上すべての議案審議が終わった後、事務局から支部規約の運用に関して説明を行った。

会員の会費12,000円の内2,000円が会員の人数に応じて行事助成金として支部へ給付されるが、実際は会友も含めた支部行事全体に使われる。それなら会友は相応の負担があるべきで、会員は5,000円を納めていることになり、2,000円の負担差額がある。この差を埋めたいが、会友の支部費を上げるのは抵抗が大きいので、会員の支部費を引下げたい。他の支部では支部費はいくらかをべたら、新設の東京支部が2,000円であった。そこで熊本支部も会員の支部費を2,000円に下げたが、創立70周年を控えて財政を悪化させたくないので支部費の改定は2年後まで待つことにする。

会員の支部費を下げて差額を埋めるという方針だから、昨年設けた「会友の行事参加費を会員と

差をつける場合がある」との内規については適用を見送る、ということにした。

以上は役員会での議論の至った結果である。

4. 閉会 以上のとおり全ての議事が終了し、本総会は終了した。このあと記念写真を撮り、参加者全員注文の弁当でなごやかに昼食会を楽しんだ。正午前に解散となった。



10 会員の異動

会員入会	葉 文子	石井 美喜男
会員退会	松本 博美	
会友入会	山田 幸	坂井 哲矢
会友退会	本田 敦子	

編集後記 今回は平成7年度支部総会報告を本支部報に掲載いたしました。今年度の支部総会は何ら問題もなく無事に新年度に踏み出すことができました。毎度のことながら皆さんからの寄稿をお待ちしております。

今回は支部報校正を城戸さん、池田さんのほか役員の皆様にお願い致しました。

田北 芳博 Eメール yt19-57@tune.ocn.ne.jp ☎ 田北 09087611471